

太政官沿革志

検査院職制章程

二十六

類冊架函

国立公文書館

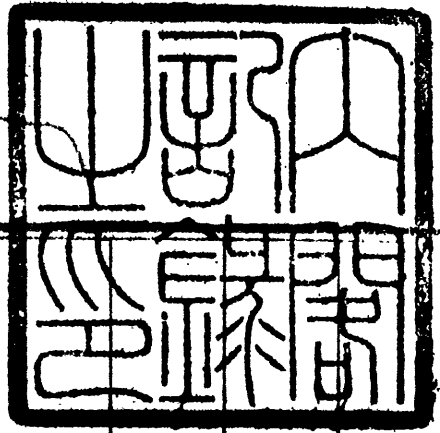
2 A

34 1

① 1433

1434

150



檢査院職制章程部

内  
陸

### 職制章程

○會計検査院取扱事務

十三年三月五日  
本院設置、日定ムル

所第十八号ヲ以テ官  
省院使府縣ニ達ス

- 一 會計ノ規則記簿ノ法式ヲ定ムル事
- 一 歳入出豫算表ヲ審査スル事
- 一 歳入出勘定帳ヲ検査スル事
- 一 物品受拂表ヲ検査スル事
- 一 金穀ノ出納ヲ検査スル事
- 一 作業費ヲ検査スル事
- 一 各廳ノ會計帳簿ヲ検査スル事

一歳入出ノ決算証書ヲ付與スル事  
一歳入出決算報告書ヲ調製スル事  
以上ノ條件ハ是迄大藏省検査局ニテ履行セ  
ル成規定例ニ依リ處辨シ其疑義ニ涉ル條件  
ハ其都度伺出ベシ

違文

今般太政官中會計検査院ヲ設置シ大藏省中  
検査局相廢シ候條此旨相違候事

但追テ一定ノ事務章程相違候迄該院ニ於  
テ當分ノ内別紙箇條書ニ照準シ事務取扱

候儀ト可相心得事(別紙ハ則テ前記ノ取扱  
事務ナリ)

(按スルニ本月十日會計検査院職負等級ヲ  
定ムルノ令アリト雖職制章程ハ未夕制定  
ニ至ラス)(職負ノ事ハ太政官職負ノ部ニ  
詳見ス)

○會計検査院分課 十三年三月十二日稟定

一 審査課

一 簿記課

一 決算課

一 編輯課

一 庶務課

以上五課

○本院屬官検査官ノ事務ヲ代辦ス

本院稟議十三年三月廿五日上申四月一日

今般當院御設立ニ付テハ十一年七月十日第二

号御達各廳金穀物品等出納検査ノ儀ハ今後

當院ニ於テ遵行スヘキ事項ニ有之尤モ右御

達規程中検査負トアルハ本院ニ於テハ即チ

検査官ニ該當セシ勿論ノ處當今検査官人負

寡少ニシテ遍ホク各廳へ出張ノ儀差支候ニ

付テハ自然屬官ヲ充用セサルヲ不得然ルニ

屬官ヲ以テスルハ前陳検査官ノ名義ニ對シ

不都合ト被存候間特ニ派遣ノ期ニ臨ミ當院

長権内ヲ以テ検査官心得申付事務代辦為致

候様仕度此段相伺候也

會計部議案

別紙検査院同屬官ヲシテ検査官事務代辦セ

シメ度トノ儀ハ御聞届相成可然因テ左案取

調仰高裁候也

(左按ハ朱批)

○稟議ニ援引セル十一年第二号達ハ左ノ如シ

金穀及ヒ物品出納ノ實況検査ノ為メ大蔵省官負ヲシテ毎歳各廳ハ派出セシメ候條此旨相違候事

但別冊検査負派出規程為心得相違候尤臨時派出ノ儀ハ明治七年八月第百九號達ノ通可相心得事 (別冊畧之)

○(職制章程更定)

達文更定トフルニ據ル其實職制章程ハ之ヲ創始ト

ス前ノ制ハ唯職負及ヒ取扱事務ヲ定ムルノミ

會計検査院職制

十四年四月廿八日更定第拾五号ヲ以テ官省院使

廳府縣ニ違ス同日三十三號ヲ以テ會計法ヲ達ス

長 二等官

本院ノ官吏ヲ統率シテ主管百般ノ事務ヲ總理ス

本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

副長 三等官

職掌長ニ亞ク

以上勅任

一等検査官

二等検査官

三等検査官

四等検査官

定員十名

官金及ニ物品ノ出納官有財産管理方法ノ監査歳計ノ豫算決算ニ係ル事務ヲ分任ニ會計主務官吏懲戒ノ断案ヲ調査ス

大書記官

権大書記官

少書記官

権少書記官

院長官房ノ事務及院中ノ庶務會計記録ヲ幹理ス

大少書記官ノ内貳名ヲ定員トス

以上奏任

検査官補 相當八等官ヨリ十七等官ニ至ル

定員七十五名

検査官ニ属シ検査ノ事務ニ従事ス

検査官事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヲ得

属

相当八等官ヨリ十七等官ニ至ル

書記官ニ属シ文書計算ノ事務ニ従事ス

會計検査院章程

第一條 會計検査院ハ政府ノ歳計ヲ審査監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條 歳入出豫算ノ當否ヲ審査シ其意見ヲ内閣ニ具申ス

第三條 官金及ヒ物品ノ出納官有財産管理ノ

方法ヲ監査ス

第四條 會計検査上ニ於テ各事業ノ審査ヲ要スル時ハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルヲ得

第五條 國庫及ヒ各廳収支ノ決算ヲ審査判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ状ヲ宣告ス

第六條 前條ニ依リ為シタル宣告ハ終審ノモノトス但内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタル片ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命シテ審理セシムルヲ得



第七條 歳入出決算ノ報告及ニ行務ノ年報ヲ調整シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條 會計ニ関スル法律規則及ニ院中處務課程ノ創定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得

第九條 會計ニ関スル法規ノ疑條ヲ辨明シ之ヲ各處ニ通知スルヲ得

第十條 地方稅收入支出ノ豫算及ニ決算報告ヲ査閱ス

第十一條 會計主務官吏會計ノ法規ニ違フタ

ル時ハ懲戒ノ断案ヲ草ニ其奏任以上ニ係ル者ハ内閣ニ上申シ其判任以下ニ係ル者ハ所属長官ニ通報ス但刑法ニ明文アル者ハ一面以テ之ヲ檢事ニ告知ス

第十五條 會計検査院ヨリ發スル文書ハ院長ノ名ヲ以テシ其決算ノ状ヲ宣告スルモノ及ニ懲戒ノ断案ハ主任ノ検査官之ニ連署ス

大隈参議議案十四年三月稟申(此時大隈参議ハ會計部ノ主管タリ)

會計検査院ノ章程タル未タ精確ノモノ之レナク昨年該院創設ノ際暫ク従前大藏省検査

局ノ定規ニ依リ事務辦理スヘキ旨違セラレ  
職制ノ如キモ單ニ検査官ノ制ヲ立ルニ止リ  
當時猶ホ其職掌ヲ明示スルニ至ラサリシナ  
リ是ニ由テ爾來各國ノ法制實際ノ便否ヲ酌  
量シ確的ナル章程ノ調査ニ從事シ方ニ漸ク  
其草按ヲ製スルヲ得タリ又従前會計ノ法規  
タル諸種數回ノ違シ若クハ隨時ノ指令若シ  
クハ一省一局限リノ定規ヲ認可シタルモノ  
ニ係ルヲ以テ頗ル煩雜ヲ極メ前後ノ令違或  
ハ互ニ矛盾若クハ重複ナキヲ免カレズ今之

ヲ取捨折衷シテ幾許ノ補正ヲ加ヘ以テ會計  
法規ノ綱領ヲ固定シテ其規格ヲ條例明晰ナ  
ラシムルハ寔ニ政務改良ノ一端ニシテ急要  
ノ事業タルヲ以テ是亦章程ト同時ニ之ヲ調  
査シテ爰ニ會計法按一編ヲ撰修シタリ然リ  
而シテ以上ノ草按ハ脱稿ノ後法制部ヨリモ  
特ニ委負ヲ要メテ協議査閲ヲ經タルヲ以テ  
幸ニ御裁可ヲ蒙ラハ速ニ御發表相成度謹テ  
仰高裁候也

附錄

會計法中本院職制ニ関スル條項本院會計法ハ

章程ト同日制定スル所第三十三号ヲ以テ官省院使廳府縣ニ達ス

第二章

第七條 歳出入豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大

藏省之ヲ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ

經内閣ニ於テ決定ス

第十一條 大藏省ハ前數條ノ豫算調書ヲ以

テ統計豫算書ヲ調整シ豫算調書ト共ニ四

月十日迄ニ太政官ハ進達シ太政官ハ直ニ

之ヲ會計検査院ハ送付スニ

第十二條 大藏省ハ統計豫算書調理ノ際其

増減ヲ要スルモノハ各廳開申ノ事由ト大

藏卿ノ意見トヲ詳記シ統計豫算書ト共ニ

之ヲ太政官ハ進達スニ太政官ヨリ之ヲ

會計検査院ハ送付スルコト前條ニ同シ

第十三條 會計検査院ハ豫算調書統計豫算

書及ヒ大藏卿ノ意見書審査ノ為メ四月十

五日ヨリ検査官ノ會議ヲ開キ五月廿日限

リ之ヲ議了シ直ニ太政官ハ進達スニ

第十四條 太政官ニ於テハ會計検査院ヨリ

費額、流用、  
入出、増減

進達シタル豫算書ヲ審議シ六月五日迄ニ  
之ヲ決定スヘシ

第十五條 各廳(府縣ヲ除ク)ニ於テ豫算上決  
定シタル小科目以上ノ費額ハ太政官ノ特  
別ノ許可ヲ得ルニアラサレハ彼此流用ス  
ルヲ得ス太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時  
ハ會計検査院及ヒ大藏省へ通知スヘシ

第十六條 府縣ニ於テ小科目以上ノ流用ヲ  
要スル時ハ其事由ヲ大藏卿へ具申シ其許  
可ヲ請クヘシ大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタ

ル時ハ會計検査院へ通知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ  
要スル時ハ其事由ヲ太政官へ具申シテ許  
可ヲ請クヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタ  
ル時ハ會計検査院及ヒ大藏省へ通知スヘ  
シ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル  
時ハ其事由ヲ大藏省へ具申シ大藏省ハ之  
ヲ太政官へ具申シテ其許可ヲ請クヘシ太  
政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査

院へ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ

生スル時ハ之ヲ大蔵省へ通知シ大蔵省ハ

之ヲ太政官へ上申シ會計検査院へ通知ス

ヘシ

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用

フヘシ若シ其式様ヲ變更セントスル片ハ

會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十八條 大蔵省ハ國庫ニ於テ日々出納

スル所ノ金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎

記簿

出納勘定帳

翌日會計検査院へ報告スヘシ

第三十七條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト

経費トヲ分チ其精算ノ既済未済ヲ區別シ

官省院廳局ハ毎月使府縣ハ每三ヶ月在外

公館ハ每六ヶ月出納勘定帳ヲ翌月二十日

迄ニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大蔵省へ

送付スヘシ

第三十八條 大蔵省ハ每三ヶ月租税勘定帳

ヲ編成シテ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査

院へ差出スヘシ

第三十九條 大藏省ハ每三個月國債償還紙幣及消準備金ノ收支起業基金ノ受拂及ヒ貸付金繰替金返納等ノ勘定帳ヲ調製シ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スハ

第四十一條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラザルモノアル時ハ其事由ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ開申シ翌年度ニ於テ其結算ヲナスヘシ

第四十四條 凡ソ歳入出ノ決算ハ各廳收支

ノ決算額ヲ會計検査院ニ證明シ太政官ヨリ之ヲ公達スヘキモノトス

第四十六條 各廳經費中建築等ノ費項ニシテ該年度最初決定ノ豫算書ニ科目金額ヲ明載シ既ニ着手セシモノ事故アリテ豫算ノ如ク竣成ニ至ラス翌年度ニ跨ルノ類ニ限リ三個月間決算ヲ延期スハシ其延期ヲ要スルモノハ事由ヲ具シ會計検査院ハ承認ヲ請クヘシ但豫算決定ノ後他費流用又ハ増費等ヲ以テ起業セシモノハ第二條ニ

據リ六月三十日ヲ以テ決算スヘシ

第四十七條 大藏省ハ毎會計年度國庫ノ出納決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後六個月限リ會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十二條 大藏省ニ於テハ毎月常用金ノ在高其種類ノ内譯及ヒ國債額準備金起業基金貸付金預ケ金並其抵當品假納金預リ金等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ調製シ翌月七日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘシ

第五十四條 製造場等ヲ管スル各廳ハ毎會計年度其作業ノ損益及ヒ資本金償却等ノ計算報告書ヲ作り決算報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十五條 各廳ハ本廳及ヒ各部局ニ供用スヘキ諸物品ノ出納ヲ每三個月ニ區分シ其計算表ヲ翌月廿日マテニ調整シ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十六條 各廳ハ本廳及ヒ各部局所管ノ地所家屋其他官有財産ノ種類ヲ分テ計算表ヲ製シ每五年大藏省ヘ送付シ其増減ヲ

ル片ハ其時々之ヲ通知スヘシ大蔵省ハ之  
ニ總計表ヲ添付シ毎年會計検査院ハ差出  
スヘシ

第五十七條 各府縣ハ定規ニ依リ地方稅收  
入支出ノ豫算及ヒ決算報告書ヲ製シ内務  
大蔵兩省ハ進達シ内務大蔵兩省ニ於テハ  
査閱承認ノ上總計表ヲ添付シ會計検査院  
ニ報告スヘシ

第五十八條 凡ソ官金ノ棄捐ヲナラントス  
ル片ハ其狀ヲ具シ太政官ノ裁可ヲ請フヘ

シ太政官ニ於テ之ヲ許可セシ片ハ會計檢  
査院及ヒ大蔵省ニ通知スヘシ

第五十九條 豫算調書統計豫算書決算書報  
告書出納記簿ハ會計検査院及派出検査官  
ハ差出シタル後其改削塗抹ヲ為スヘカラ  
ス但検査官ノ承認ヲ得タルモノハ此限ニ  
アラズ

○

各廳長官ト會計主務官吏トノ分掌中本院  
職制ニ関スル條項十四年四月三十日三十  
六号ヲ以テ官省院使廳



府縣ニ  
連ス

第一條

各廳ノ長官ハ會計ノ法規ニ從ヒ會計主務官  
吏ニ向テ金錢及ヒ物品出納ノ命令ヲ下シ該  
廳ノ歳入出豫算ヲ調整シ會計検査院ニ向テ  
其決算ノ報告ヲ為スヲ掌リ其決算ニ就テノ  
責任ハ太政官ヨリ該年度政府ノ歳入出決算  
書ヲ公布シタルニ了ル

第二條

各廳ノ會計主務官吏ハ會計ノ法規ニ從ヒ金  
錢物品ノ管守及ヒ該廳長官ノ命令ニ依リ金  
錢物品ノ現出納ヲ掌リ其出納上ノ精算ヲ會  
計検査院ニ向テ證明シ其認可状ヲ得テ其責  
任ヲ了ル

第四條

各廳會計主務官吏ハ其長官ノ上請ニ依リ太  
政官ヨリ之ヲ命ス但別ニ會計官吏ノ制タル  
モノニ擔任ノ場所ヲ命シ及ヒ判任官ヲ以テ  
會計主務官吏ト為シタルトキハ會計検査院  
ニ届出ヘシ

○(陸海軍會計主務官吏ノ會計法規ニ違フ  
ハ本院章程第十一條ヲ適用セズ)十四年  
二日本院  
ニ違ス

陸海軍會計主務官吏ノ儀ハ其院章程第十一條  
ノ限ニ在ラサル者ニ付該官吏會計ノ法規ニ違  
フ時ハ總テ同省ノ卿ノ告知候儀ト可心得此旨  
相違候事

陸軍海軍両省稟議 十四年七月六日上申  
本年四月廿八日會計検査院職制章程御更定  
相成候段公違有之熟閱候處第十一條ニ至テ

陸海軍ノ如キ刑律ノ異ナル廳ニ於テハ檢事  
ニ報知スル儀實際不得其當加之懲戒令ヲモ  
不引用儀ニ付テハ到底難被行事ト思考候條  
渾テ陸海軍卿ニ報知候様御改定相成度此段  
上申候也

會計部議案 十四年八月廿五日上呈  
九月十二日ニ至リ違ヒアリ  
別紙陸海軍両省上申會計検査院章程第十一  
條改正ノ件ハ別段改正ヲ布違セラレサルモ  
特ニ同院ハ両省ノ儀ハ該條ノ限ニ在ラサル  
旨違セラレ可然歟法制部協議ノ上左按取調

仰高裁候也

(左按ハ前記ノ違文ナリ)

○會計検査院職制

十五年一月十六日會計  
法ト共ニ更定第五号ヲ

以テ官省院使廳府縣ニ違ス(客歲十月  
法制會計等六部ヲ廢シ參事院ヲ置ク  
大限參議亦同  
月ヲ以テ罷ム)

長 相當二等

本院ノ官吏ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ總理ス  
本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ  
判任以下ハ之ヲ專行ス

副長 相當三等

職掌長ニ亞ク

検査官 相當四等ヨリ七等ニ至ル

會計検査ノ事務ニ分任ス

書記官 相當四等ヨリ七等ニ至ル

院長官房ノ事務及ヒ院中ノ庶務會計記録ヲ  
幹理ス

検査官補 相當八等ヨリ十七等ニ至ル

検査官ニ屬シ検査ノ事務ニ従事ス検査官事  
故ヲレ片ハ其事務ヲ代理スルヲ得

屬 相當八等ヨリ十七等ニ至ル

書記官ニ屬シ文書會計ノ事務ニ従事ス

○會計検査院事務章程

第一條 會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條 歳入歳出ノ決算ヲ審査判定シ其證明者ニ向テ認可ハ状ヲ宣告ス

第三條 各廳長官會計ノ報告書ニ就テ太政官ニ向テ其計算ヲ證明ス

第四條 會計ノ帳簿及ヒ金錢物品ノ出納ヲ検査シ時宜ニ依リ事業ノ實況ヲ査閲スルヲ得

第五條 會計検査上要用ト認ムル書類ハ悉皆之ヲ點檢シ及ヒ其主務者ノ辨明ヲ求ムルヲ得

第六條 會計法規ノ創定釐革ニ関シ其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得

第七條 歳入出決算検査完了ノ後其行務ノ成績及ヒ會計ニ関スル意見ヲ掲述シタル年報ヲ調製シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條 會計官吏會計ノ法規ニ違フ者ヲルハ所属長官ニ對シ其旨ヲ告知スヘシ

検査院職制章程改正主意

但刑事ニ係ル者モ亦本條ニ準ス

伊藤参議議按 十四年十二月廿六日上申

過般内閣ノ更迭諸省ノ事務章程御改正アラ  
セラレ候ニ就テハ會計法並ニ會計検査院職  
制章程中釐革ヲ要スル箇條寡カラス候條大  
藏卿並ニ検査院長トモ熟議ノ上別紙ノ通改  
正按起草仰高裁候也

但本件ハ過般御改革ノ旨趣ニ繼續シ且法  
ノ名稱アリト雖官吏限リノ法規ニシテ人  
民ニ關係無之ニ付参事院ノ御下議ニ及フ

間敷ト思考イタニ候此段副申候也

(附録)

改正會計法中本院職制ニ関スル條項會計

法會計検査院職制章程ト共ニ改正十  
五年一月十六日第五号ヲ以テ官省院

使廳府縣  
ニ達ス

第十六條 各廳ニ於テ豫算上決定シタル小

科目已上ノ費額ヲ彼此流用セントスル片

ハ大藏省ノ承認ヲ受クハニ大藏省ニ於テ

之ヲ承認シタル片ハ會計検査院ニ通知ス

ハニ但事務ノ興廢伸縮ニ係ルモノハ大藏

改正會計法中本院職制ニ関スル條項

省ヲ經由シテ太政官ノ許可ヲ請クヘキモノトス

第十九條 太政官ニ於テ各廳豫算外臨時増費ヲ許可シタル片ハ之ヲ大藏省及ヒ會計検査院ニ達スヘシ但府縣ノ分ハ大藏省ヨリ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル片ハ毎三ヶ月之ヲ大藏省ニ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ上申シ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十六條 大藏省出納局長ハ毎一月其出納スル所ノ金貨科目及ヒ事要ヲ摘記シタル收支現計書ヲ作り翌月七日迄ニ之ヲ會計検査院ニ報告スヘシ

第三十三條 出納ハ會計年度經過後八ヶ月ヲ限リ閉鎖スヘシ但閉鎖後ト雖モ會計検査院ノ決算検査上ヨリ出納ヲナスハ此限ニ非ス

第三十六條 各廳ニ於テ日記簿原簿現金受拂簿豫算簿ヲ取捨シ及ヒ其式様ヲ變更シ

若クハ補助簿ヲ設クル片ハ大蔵省ノ承認  
ヲ請クヘシ大蔵省ニ於テ之ヲ承認シタル  
片ハ會計検査院ニ通知スヘシ但大蔵省國  
庫出納ノ記簿ハ會計検査院ノ承認ヲ請ク  
ヘシ

#### 第四章 歳入出決算

第三十七條 大蔵省租税局長及ヒ關税局長  
ハ每會計年度租税決算帳ヲ調製シ翌年度  
四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ  
其認可ヲ請クヘシ

第三十八條 大蔵省國債局長ハ每會計年度  
國債償還利子仕拂貸付金返納ノ決算帳ヲ  
調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢  
査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第三十九條 大蔵省出納局長ハ每會計年度  
ニ属スル國庫出納ノ決算帳ヲ調製シ翌年  
度四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明  
シ其認可ヲ請クヘシ

第四十條 各廳會計主務官吏ハ每會計年度  
收入經費決算帳ヲ調製シ翌年四月三十日

迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第四十一條 會計検査院ハ翌々年度四月迄ニ各廳ノ決算ヲ審査判定シ其認可狀ヲ宣告スヘシ但認可ヲナシタルハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第四十三條 大藏卿ハ毎會計年度國庫歳入出總決算報告書ヲ調製シ各廳長官決算報告書ト共ニ太政官ニ進達シ太政官ハ會計検査院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏省及

ト各廳ノ長官ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

### 第五章 雜則

第四十四條 大藏省ニ於テハ毎會計年度間國債額準備金起業基金中央備蓄儲蓄金貸付金抵當品鑄造貨幣交換豫備紙幣廢毀紙幣公債證書等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ翌年度九月迄ニ調製シ之ヲ太政官ニ進達シ太政官ハ會計検査院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏卿ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

第四十八條 太政官ニ於テ會計ニ関スル事



各廳ニ於テ會計上ニ関スル規則ヲ定メ又ハ改廢スルハ本院ニ通知ス

項ヲ裁決シタルハ其都度之ヲ大藏省及

ニ會計検査院ニ達スハシ

○(各廳ニ於テ會計上ニ関スル規則ヲ定メ

又ハ改廢スルハ本院ニ通知スル者トス)

十五年六月五日第三十二号ヲ以テ官省院廳ニ達ス

各廳ニ於テ會計上ニ関スル規則ヲ定メ又ハ之

ヲ改正廢止スルトキハ其時々會計検査院ニ通

知スハシ此旨相違候事

本院稟議 十五年三月十三日上甲

會計ニ関スル諸法規即チ會計法月俸規則旅

費定則等ノ類ニシテ其施行上ニ就キ主務廳

ニ於テ各廳ノ質義ニ回答指令ニ及ヒ各廳其

権内ヲ以テ會計ニ関スル例規等ヲ制定若クハ

廢併シタルモノタルハ會計法規ノ統一ヲ

主持スル責任ニ對シ本院直チ之レヲ承知

致シ置候儀必用ニ有之候條其時々本院ニ通

知候様各廳ニ御違相成度御違案相添此段相

伺候也

追テ參事院ニ於テ會計法規ニ就キ辨明致

シ候外モ本文同様其時々通知候様該院ニ

御達相成度此段添申候也

御達案

官省院廳

會計ニ関スル諸法規ノ施行上ニ就キ主務廳  
ニ於テ他廳ノ質問ニ回答指令ニ及ヒ各廳権内  
ヲ以テ會計ニ関スル例規等ヲ劃定釐革シタ  
ルキハ其時々會計検査院ニ通知スヘシ此旨  
相達候事

○

第一局議按

十五年五月二十日

別紙會計検査院上申各廳ヨリ其主務廳へ會  
計法規ノ質問ニ對シ指令回答ニ又ハ各廳  
長官ノ権内ヲ以テ會計ニ関スル例規等制定  
釐革スルモノハ同院ノ責任ニ對シ直チニ之  
ヲ承知スルヲ必用トスルノ件ヲ按スルニ其  
質問ニ指令回答スルモ只其主旨ヲ説明ス  
ルニ止ルハ勿論假令施行上ニ関シ二三廳  
ノ質問等ニ回答指令スルモ一般ヲシテ畫  
一ナラシムル能ハサルモノ、如キハ會計法  
規ヲ統一スルニ於テ之ヲ豫知セサルヲ得サ

審査部設置

ルノ要點ナシ九十四年第九十四号達ヲ以テ  
各省章程通則被相定候ニ付長官ノ権内ヲ以  
テ諸規則等ヲ制定更革スルノ場合有之ニ付  
右様ノモノハ勿論太政官ノ裁可ヲ經テ施行  
スヘキモノト雖モ會計ニ関スルモノハ各廳  
ヨリ直チニ同院へ通知セシメ候方検査上ノ  
便宜ヲ得ハクト相考候間更ニ左按ノ通御達  
相成候方可然歟仰高裁候也(左按ハ則前記ノ  
達文ナリ)

○本院各部設置及事務分掌日十四年八月三日

臣閣了下付(年月)順序ヲ以テスルハ  
本項ハ當ニ改正職制章程ノ前ニ入ル  
ハシ然レモ本院ノ職制章程トハ輕重  
大小全ク其類ヲ異ニス因リテ特ニ職  
制章程ノ後ニ列記ス

審査第一部

會計検査ノ事務ヲ掌ル擔當ノ各廳左ノ如

- 本政官 宮内省 文部省 開拓使
- 茨城縣 福島縣 宮城縣 岩手縣
- 青森縣 秋田縣 山形縣

審査第二部

前ニ同ニ擔當ノ各廳左ノ如シ

外務省 司法省 工部省 元老院

地租改正事務局 神奈川縣 静岡縣

愛知縣 岐阜縣 福井縣 三重縣

滋賀縣

審査第三部

前ニ同ニ擔當ノ各廳左ノ如シ

内務省 農商務省 京都府 大坂府

和歌山縣 德島縣 兵庫縣 岡山縣

島根縣 廣島縣 山口縣

審査第四部

前ニ同ニ擔當ノ各廳左ノ如シ

大藏省 東京府 千葉縣 栃木縣

群馬縣 山梨縣 長野縣 新潟縣

石川縣 埼玉縣

審査第五部

前ニ同ニ擔當ノ各廳左ノ如シ

陸軍省 海軍省 高知縣 愛媛縣

福岡縣 大分縣 熊本縣 長崎縣

鹿兒島縣 沖繩縣

簿記部

會計ノ原簿ヲ管理シ簿記ノ式様ヲ定ムル等ノ事ヲ掌ル

報告部

本院年報書及ヒ歳入出決算報告書ヲ調製スル等ノ事ヲ掌ル

上申文左ノ如シ

本院中別紙ノ通各部ヲ置キ事務分掌為致候條此段上申仕置候也

○審査部改正第一回

十五年一月廿日上申

審査部改正第一回

審査第一部

國庫 内務省 大藏省 元老院

兵庫縣 鳥取縣 島根縣 廣島縣

岡山縣 徳島縣 大坂府

山口縣 福岡縣 長崎縣 熊本縣

鹿兒島縣 冲繩縣 大分縣 愛媛縣

全第二部

外務省 陸軍省 海軍省 文部省

群馬縣 新潟縣 長野縣 山梨縣

静岡縣 神奈川縣

高知縣 和歌山縣 京都府 滋賀縣  
石川縣 福井縣 岐阜縣 愛知縣  
三重縣

全第三部

太政官 宮内省 農商務省 工部省

司法省

北海道 岩手縣 宮城縣 茨城縣

青森縣 秋田縣 山形縣 福島縣

栃木縣 埼玉縣 千葉縣 東京府

審査第一部擔當

部長 検査官 長岡 義之

全 渡邊 昂

全 石川 敬直

全 深井 寛

審査第二部擔當

部長 検査官 濱 弘一

全 坂部 長照

全 伊藤 祐敬

審査第三部擔當

部長 検査官 安川 繁成

全 松平 信正  
全 福地 家良

以上

上申文左ノ如シ

本院審査部ノ儀従前五部ニ分テ事務分掌  
為致置候處今般事務整理上便宜ノ為メ改  
メテ三部ニ分テ各部長ヲ置キ別紙ノ通リ  
分擔為致候條此段上申候也

○審査部改正第二回申十五年八月廿八日上

審査第一部

審査部改正  
第二回

部長 検査官 長岡 義之

全 渡邊 昂

全 石川 敬直

全 深井 寛

國庫 太政官 内務省

大蔵省 農商務省 宮内省

大阪府 兵庫縣 長崎縣

新潟縣 静岡縣 山梨縣

長野縣 石川縣 福井縣

鳥取縣 島根縣 岡山縣

内閣

廣島縣

山口縣

徳島縣

愛媛縣

福岡縣

大分縣

熊本縣

鹿兒島縣

沖繩縣

審査第二部

部長

検査官

濱

弘一

全

坂部

長照

全

松平

信正

全

伊藤

祐敬

外務省

陸軍省

海軍省

文部省

工部省

司法省

元老院

東京府

京都府

神奈川縣

埼玉縣

群馬縣

千葉縣

茨城縣

枋木縣

三重縣

愛知縣

滋賀縣

岐阜縣

福島縣

宮城縣

岩手縣

青森縣

秋田縣

山形縣

和歌山縣

高知縣

函館縣

札幌縣

根室縣

上申文左ノ如シ

本院審査部ノ儀従前三部ニ分テ置候處事



會計検査院各  
部局事務規程  
制定

務整理上ノ都合有之候ニ付改テ二部ニ分

テ別紙ノ通相定候條此段上申候也

○各部局事務規程制定十六年十一月十二日制定即日申

會計検査院各部局事務規程

院中審査部及ヒ書記局ヲ置キ其部ハ各廳會

計検査ノ事ニ任シ其局ハ院長官房ノ事務及

ヒ一切ノ庶務ヲ幹理ス其事務規程ヲ定ムル

左ノ如シ

審査部

第一條 審査部分テ二部トシ部中各四課ヲ

分置ス

第二條 各部課ノ分擔ハ官廳若クハ事項ニ依

リ院長之ヲ定ム

第三條 各部ニ長ヲ置キ検査官ヲ以テ之ニ充

ツ

第四條 部長ハ該部一切ノ事務ヲ擔理ス

第五條 各課ニ検査官ヲ分任シ検査官補ヲシ

テ課務ニ從事セシム

第六條 検査上ノ辨明若クハ決算督促等ニ係

ル事項ハ各廳ニ對シ部長ノ名ヲ以テ

之ヲ照會スルヲ得

第七條 凡ソ検査事務ニ關スル書類ハ部長ヲ經由シ之ヲ院長ニ出スヘシ

第八條 決算ノ判定報告書ノ證明行務年報ノ成定其他検査上重要ノ事件ハ各検査官審議ノ上院長之ヲ決ス

第九條 各廳派出検査ハ其時々院長之ヲ検査官ニ命ス

書記局

第十條 本局ニ長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充

ツ

第十一條 局長ハ局中一切ノ事務ヲ擔理ス

第十二條 本院事務中書記官ヨリ各廳へ往復スルモノハ本局長ノ名ヲ以テス

第十三條 本局分テ庶務年報往復記録調度統計ノ六掛トシ屬官ヲシテ之ニ分屬セシム

第十四條 庶務掛ハ院長官房ノ事務及ヒ一切ノ庶務ニ従事セシム

第十五條 年報掛ハ行務年報ノ編製ニ従事セシム

ム

第十六條 往復掛ハ諸公文ノ受授及ヒ發遣文書ノ淨寫ニ從事セシム

第十七條 記録掛ハ會計ニ關スル法規ノ編纂及ヒ一切記録ノ保存ニ從事セシム

第十八條 調度掛ハ院中會計及ヒ用度營繕等ニ從事セシム

第十九條 統計掛ハ會計上緊要事項ノ統計ニ從事セシム

○

本院需用物品  
官ノ用度課  
管理ス

(附録)

本院需用物品其他舊費ニ仍リ太政官用度課ニ於テ管理ス

會計検査院稟申 十四年五月廿六日

本院職制更定相成候ニ付テハ經費ノ儀自今所屬書記官ニテ取扱候ハ勿論ニ有之然ルニ從前需用物品其他茶湯火所等ノ如キニ至テハ總テ官中用度課ニテ合一ニ取扱来リ候儀ニ付此際職制ニ照シ新々ニ區界相立候テハ諸般新設ノ為メ少カラサセ費用モ相掛リ隨

テ屬負モ行足リ兼候ハ必然ニ付旁便宜ヲ以  
テ姑ラク舊貫ニ仍リ用度課ニテ取扱候様致  
シ度内閣書記官協議ノ上此段上申仕候也

○

本院ノ會計亦太政官用度課ニ於テ管理ス

本院稟議三十四年九月二十一日上申十月三十一日批下

本院會計之儀ハ元來官中用度課ニテ取扱來  
候處本年第三十五号公達本院職制章程中書  
記官ハ院中ノ庶務會計記録ヲ幹理スト有之  
且第三十六号公達中命令権限分任之明文モ

本院會計亦  
用度課ニ於テ  
管理ス

有之其成規ニ隨ヒ本院會計主務官之儀本院  
書記官ハ被命候處院中狹隘ニテ火所等可取  
建場所無之不得止從來之姿ヲ以テ用度課ハ  
合併依頼候外無之左候テハ營繕其他薪炭等  
之費用計算分割方差支到底當今之建築ニテ  
ハ別立之會計實際難被行且本年度豫算ニ於  
テ本院經費ハ太政官中ニ一併相成居候儀ニ  
モ有之旁此際活法ヲ以テ内閣書記官ハ本院  
會計主務兼勤被命官中用度課ニテ取扱相成  
候様致シ度此段相同候也

批文

伺ノ趣其院會計ノ儀ハ官中用度課ニ於テ管  
理候儀ト心得ヘシ

會計部議按 十四年十月廿日

別紙會計検査院、伺同院會計主務ノ件ハ從來  
該院ノ會計ハ官中用度課ニテ取扱来リタル  
ニ本年第三十五六兩号ノ御達ニ遵ヒ曩ニ院  
長ヨリ上請シテ其主務ハ該書記官ニ命セラ  
レタルモ今院中狹隘ナルト其他ノ差支アル  
トニ由リ獨立ノ會計ハ實際行ハレ難ク且本

年度豫算ニ於ケルモ院ノ經費ハ官中ニ一併  
相成居旁内閣書記官ニテ該院會計主務兼勤  
ノ上用度課ニ於テ右事務取扱相成度トノ旨  
ニ有之因テ按スルニ該院ノ儀ハ太政官中ニ  
在テ其會計ハ既ニ官中用度課ニテ取扱来候  
儀ニテ別ニ差支ノ慮モ無之故サラニ會計主  
務官ヲ置キ獨立ノ會計ヲ為サシムルニ及バ  
ザル儀ト存候間左按ノ通御指令相成可然哉  
仰高裁候也(左按ハ前記ノ批文ナリ)